

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	高温下での長時間に及ぶ消火活動による熱中症 (覚知15時26分 鎮火21時29分)
3. 体験した事例の中心的要素	昼間帯の火災において、消火隊の隊員として、水分補給できない状況下で放水活動を約4時間実施したため、熱中症になったもの。
4. 体験した事例の原因・理由	若年層職員で災害現場経験が少なく、緊張状態で4時間におよぶ放水活動の中で、水分補給ができなかった。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成24年8月23日 午後8時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：路上
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	その他：熱中症
7. 事例体験時の活動	火災現場活動中期、[木造建物]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	放水活動
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

○当事者A	年齢[24]歳、勤続年数[1]年、現場経験年数[1] 年、階級[消防士] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 [], 任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 [], 任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

[illegible]

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者Aが	災害現場へ出場	
経過2	当事者Aが	放水活動4時間後、水分補給をした際に意識が混濁し、救急搬送された。	
経過3		搬送先病院で熱中症と診断された。	
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

[illegible]

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が劣っていた。その他：拡大する火災現場で水分補給することなく、放水活動を行ったため。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ
b. 注意力が欠如していた	
・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	はい
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

【消防本部全体等】熱中症は体力の消耗が激しく、注意力が欠如することにより重大な事故につながるため、早期に交代要員を確保している。

○装備・資機材の対策について

【消防本部全体等】夏期の火災現場ではクイックテントを設営し、合わせてミスト送風のできるクールボーイ（送風機）を設置している。テント内には、水分補給用飲料水、冷却用アイスパックを置いている。
【部隊】乗車車両に水分補給用飲料水等を積載している。

○活動環境の対策について

【消防本部全体等】夏期の火災現場ではクイックテントを設営し、合わせてミスト送風のできるクールボーイ（送風機）を設置している。テント内には、水分補給用飲料水、冷却用アイスパックを置いている。テント内を休憩場所に指定し、現場外套の脱衣、装備の解除を指示している。

○指揮・情報伝達の対策について

【消防本部全体等】指揮者として効率的な部隊運用を図り、必要に応じて交代要員を確保している。
長時間の活動が予想される場合は、交代要員と任務を交代し、小隊単位で休憩をとらせ活動能力の低下を防いでいる。
活動中の休憩については、指揮本部から無線機を活用して、各隊に休憩場所を周知している。

高温下での長時間に及ぶ消火活動による熱中症

8月23日 晴

(覚知15時26分〔気温28度・湿度83%〕 鎮火21時29分)

